

令和6年度 第2回 静岡県立浜北西高等学校 学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和6年10月22日（火） 午前9時30分から12時45分まで
- 2 場所 静岡県立浜北西高等学校 応接室 ほか
- 3 出席者（委員、敬称略）

梅林欽哉（元小学校・中学校管理職）、阿部卓也（静岡県議会議員）、
横田みどり（横田整形外科婦長）、中津川智美（常葉大学経営学部教授）、
金島徹（浜名区調整官）、森下晃行（農業起業家／TATSUJIN 株式会社）、
松本幸範（浜北国際交流協会副会長）

学校関係者

邑田聡一（校長）、小室桜子（副校長）、伊藤正徳（教頭）、中村明江（事務長）、
北野典子（探究課長）

4 議事

第一部 探究の日

- (1) 開会式 校長挨拶、趣旨説明
- (2) 講師 座談会及び中間発表会
- (3) 全体会 探究課長挨拶、アンケート

第二部 意見交換

(1) 良かった点

- ・常葉大学での中間発表会では、生徒のプレゼンが充実していて、時間が不足し発表が終わりきらなかった。練りこまれた素晴らしい発表で、指導の賜物だと感心した。中間発表会は今年で4年目になるが、一番良い出来だった。高校生が準備してきたことが学生にも伝わり、それにより学生からのフィードバックが充実し、グループディスカッションも盛り上がった。
- ・生徒達の人との接し方が上手になった。探究の日が始まった頃は生徒との距離感を感じたが、今年は生徒達の方が積極的に関わろうとし、成長を感じる。これは4年やってきた成果であり、浜北西高の文化だと思う。この良さを探究だけでなく、教科の学びにまで発揮できるといい。
- ・夏休みに班で取材に行ったことが、探究の日に生かせるシステムになっている点がよい。
- ・探究の日のようなイベントはとてもいい。生徒達もよく考えており、余計な手心は不要とも感じた。
- ・生徒達は普段大人と話す機会が少ないこと、今回のように大人と話す時間を必要としていることが分かり、やりがいを感じた。
- ・事前に調べたことや自分の考えや経験に基づき、各班の質問に回答やアドバイスをした。自分にとっては当たり前のことが、生徒達にとっては初めて聞く内容であることが新鮮であり、また自身の勉強にもなった。
- ・テーマを深く掘り下げていない班もあったが、それほど重要ではない。大事なのはテーマ選びや本音の部分で、口に出しにくい不登校をテーマにあげた班には感心した。どうしてそのテーマを選んだのか、学校行きたくないと思った人は、など先生では取り上げにくい話題にもふれた。

(2) 座談会の形式や改善点について

- ・開会式で、探究課長から「考えさせることにチャレンジしたい」と話があったので、あまり話さないように気を付けた。また、対話がしやすいように、机をまるく並べる工夫をした。
- ・はじめて講師をしたため、勝手が分からない部分があった。投げかけた質問も生徒達には難しかったようだ。また、共通テーマが教育と聞いていたので教育全般の話をしたが、終盤になって皆の関心が保育と分かり、慌てた。生徒のニーズを把握しておく必要があった。
- ・自分の教室は、生徒が一人ずつ質問し、それに答えていく形式だった。
- ・はじめての講師で、準備に悩んだ。プレゼンを用意してきたが、投影操作が分からず、結局見せなかった。代わりに、小冊子を配って、説明をした。

(3) 生徒達へのアドバイス

- ・生徒達には次の2点を伝えた。1つはイノベーションである。全く関係ないものをくっつけることで新たな価値を生み出すことができると説明したところ、意見が活発に出るようになった。生徒達の持つバックボーンをどう引き出すか、その大切さを改めて感じた。もう1つは、野心をもつことである。野心がないと、挑戦しない。野に出る心をもっていることが大事。コンクリートのきれいな決まった道に行くより、野はリスクもあるが、花や宝物などの色んな発見があるから、外へ出て挑戦しようと言った。
- ・生徒達には、「チャンスの神様は前髪しかない。一瞬だから、やらなくてはいけないと思ったら、今やったほうがいい。」「悪い友達を持たない方がいい。どんなにいい友達でも、悪い影響を周囲に及ぼす人と一緒にいると、同じに見られるし、逃げられなくなる。」とアドバイスした。
- ・外国人と会った時にどう対応したらいいか、という質問に対して、人と接する時は日本人でも外国人でも同じで、上から目線や差別はいけないと話をした。また、どうやって英語を覚えればいいのか、という質問もあり、音楽や映画など好きなものからはじめるといいとアドバイスをした。

(4) 学校から

- ・探究の日は、生徒の表情が違う。普段接している親や教員以外の大人と話す経験は大変貴重である。また、不登校などデリケートなテーマなど教員では言いづらいことをズバッと言ってもらえることは大変有難い。
- ・教員の今年の探究テーマは、生徒との対話を楽しむこととし、校内研修を行ってきた。教えるのではなく、生徒と一緒に悩んだり、対話したりすることで、生徒の思考をくすぐって引き出したいと考えている。
- ・本校の生徒は表現が苦手であるが、皆さんのおかげで、生徒がもっと話したい、やってみたいと積極的な気持ちになったことを実感している。我々教員も生徒のやる気をもっと引き出せるよう、関わり方を見習っていききたい。